

高等学校 令和7年度（ 1 学年用） 教科 情報 科目 情報Ⅰ

教 科： 情報 科 目： 情報Ⅰ 単位数： 単 位 2
対象学年組：第 1 学年 組～ 8 組
教科担当者：（全組： ）
使用教科書：（ 最新情報Ⅰ（実教出版） ）

教科 情報 の目標：
【知 識 及 び 技 能】 情報と情報技術について理解し、情報社会との関わりを理解する
【思考力、判断力、表現力等】 事象を情報とその結びつきの視点から解決できる力を身に着ける
【学びに向かう力、人間性等】 情報社会との関わりを理解し、積極的に参画する態度を養う

科目 情報Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
情報と情報技術について理解し、情報化の進展する社会の特質および、そのような社会との関わりについて理解している。	事象を情報とその結びつきの視点から、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	ノート整理や、ファイル管理を適切に行い、情報社会との関わりを考えながら、問題の解決に向けて主体的に取り組む姿勢を身に着ける

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	情報デザインとその実践 【知識・技能】 一人1台端末の設定を行い、活用できる技術を身に着ける。文章作成の基本項目を理解する。 【思考・判断・表現】 フォント、表、インデントなど各自が工夫して、みやすい文字情報を作成する。 【主体的に取り組む態度】 ファイル、ホルダー管理をしっかり行い、一人1台端末とC A L L 室のP Cを共有できるようになる。	・一人1台端末の設定を行い、マイクログ365の活用を図る。 ・文章の基本的なレイアウトやフォント、インデントについて理解する。 ・ワープロソフトを用い、報告書や、レポートを作成する。 ・文献やインターネットから情報を収集したり、調査などを行って情報を収集したりすることができる。	【知識・技能】 ・一人1台端末を学習に利用できる。 ・ワープロソフトを使い、見やすい報告書。レポートを作成できる。 【思考・判断・表現】 ・ワープロソフトの技法、インデント・均等割り付け・装飾等が適切に使用できる。 ・適宜、情報収集力を発揮することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ノート整理、P Cのホルダー。ファイル整理ができているか。授業に積極的に参加しているか。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	知的財産権、著作権、個人情報 【知識及び技能】 知的財産権について、産業や文化の発展との関係を理解できるか。著作権および伝達者の権利について法とルールを理解しているか。個人情報、プライバシーの概念を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 専門用語を正しく理解し、情報社会の中で、様々な事例を調べることができる。	・産業財産権の4種類の権利について、理解する。 ・情報社会において、産業財産権の活用や問題について考えることができる。 ・個人あるいはグループで創作した著作権の公開について検討する。 ・個人情報について、流出を防ぎ適切に管理することを考える。	【知識・技能】 ・問題を解決するために知的財産を適切に活用し、主体的に創作活動に参画しようとしてできる。 ・著作権の例外規定を理解している。 ・個人情報の歴史的背景と現状と問題点を理解している。 【思考・判断・表現】 ・産業財産権、著作権、個人情報保護法の現状や改訂を理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に積極的に参加しているか、個人・グループで考えることができるか。	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	情報のデジタル化 データ活用 【知識および技能】 数値、文字、画像のデジタル化の仕組みが理解できるか。表計算ソフトを使い、基本的な表とグラフを作成する。 【思考力・判断力・表現力等】 2進数、10進数、16進数の変換ができるか。表計算ソフトの関数を適切に使えるか。 【主体的に取り組む態度】 情報のデジタル化に対して、より深く理解しようとしているか。	・アナログとデジタルの特徴を適切に説明できる。 ・情報量を適切な単位で表示したり変換できる。 ・2進数、10進数、16進数を用いて目的に応じて適切に表現できる。 ・文字、数値、音声、画像を目的に応じて適切にデジタル表現できる。 ・表計算ソフトを有効活用することができる。	【知識・技能】 ・情報のデジタル化について、より深く理解しようとしているか。 ・文字、数値、音声、画像のデジタル化された情報を主体的に適切に取り扱おうとしているか。 ・表計算ソフトを利用できるか。 【思考・判断・表現】 ・2進数、10進数、16進数を用いて、適切に表現、変換できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に積極的に参加しているか、個人・グループで考えることができるか。	○	○	○	7
				○	○	○	8
3 学 期	プログラミングの技法 【知識および技能】 アルゴリズムとプログラムの意味を理解している。基本制御構造を理解している。プログラムを作成実行することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 問題解決のアルゴリズムに従って、適切にプログラミングを作成できる。 【主体的に取り組む態度】 プログラム作成ツールを適切に利用できるか。	・簡単なアルゴリズムや文章をフローチャートの図などで表現できる。 ・基本制御構造（順次・選択・反復）を適切に使い、簡単なアルゴリズムを表現できる。 ・作成したフローチャートが正しいかどうか確かめられる。 ・基本制御構造を利用し、プログラムを作成実行できる。 ・プログラムを作成後、デバッグをすることができる。	【知識・技能】 ・問題解決プログラムを考え、プログラムを作成できるか。 ・アルゴリズム、フローチャートの表記に興味、関心がある。 【思考・判断・表現】 ・プログラムを応用し、自らアレンジを加えて創作的なプログラムができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に積極的に参加しているか、個人・グループで考えることができるか。	○	○	○	8
				○	○	○	8
							合計 70